

人権メッセージ



一人ひとりが大切にされ、
豊かにつながり合う社会を目指して

新成人の皆様 おめでとうございます。

21世紀という新しい世紀の幕開けとともに、皆様は誕生されました。こうして成人式を迎えられ、お祝いできることに大きな希望と喜びを感じます。

21世紀は、一人ひとりの人権が尊重され、自己実現ができる時代にしたいという全世界の人々の願いがこめられていることから、「人権の世紀」と言われています。皆様は、これまで様々な人と出会い、ともに学び、それぞれの道を歩まれ、自分らしさを育まれてきました。その自分らしさは、この先の人生を歩む上で、あなたの大きな強みとなることでしょう。ただ、これまでを振り返ってみると、時には周りに自分がどう見られているかが気になり、自分らしさを表現しづらい場面があったかもしれません。しかし、人とは違う「自分らしさ」こそ価値があり、多様な個性をもつ人々が互いに影響し合い、異なる考え方や能力を活かし合うことで、新たな価値の創造につながるのだと思います。一人ひとりのもつ違いを尊重し、認め合い、たとえ少数の意見であっても大切にしていこうという考えは、社会の中で少しずつ広がり、2030年までの達成を目標としている『SDGs』にも、「誰ひとり取り残さない」人権尊重の理念が掲げられています。

誰もが大切にされ、豊かにつながり合う社会は、一人ひとりが日々の生活の中で互いを思い合う心で築かれていきます。様々な方法で人とつながることができる若き皆様の力は、目指す社会の実現に向けて頼もしく大きな力となるでしょう。あなたも「自分らしさ」という個性を大切に、多くの人と出会い、つながり合ってください。多様な持ち味をもつ人々が手をとり合いともに歩むことで互いの理解が深まり、そして心と心がつながり合っていく、そんな社会をともにつくっていきましょう。

世界人権宣言 第一条

Universal Declaration of Human Rights
1948年12月10日 第3回国際連合総会で採択

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

令和4年新成人の集い

式次第

11:00 ● 開式の辞
● オープニングセレモニー

11:05 ● 市長式辞
● 市議会議長祝辞
● 来賓紹介

11:15 ● 新成人による企画
「再会—引き寄せられた
S極とN極—」

11:45 ● 閉式の辞

日時 令和4年1月10日 成人の日
11時～

場所 DMGMORI やまと郡山城ホール
大和郡山市北郡山町211番地3

毎月11日は「人権を確かめあう日」です。

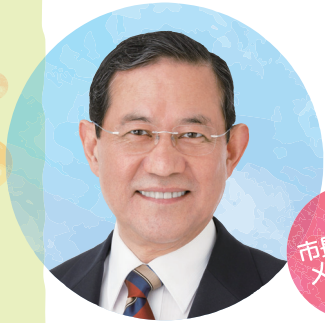
大和郡山市役所
人権施策推進課

〒639-1198 大和郡山市北郡山町248-4
TEL.0743-53-1558
FAX.0743-53-1211
<https://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/>

令和4年
新成人に贈る人権メッセージ

相手のことを思いやる、
それが人権を考えること。

Human rights message to a new adult



市長からの
メッセージ

手話とマスク

大和郡山市長
上田 清

昨年秋、大和郡山市の観光ボランティアガイド養成講座の参加者に手話通訳を必要とするお二人の姿がありました。手話による観光案内という、画期的な取り組みに心から期待します。

大和郡山市は平成27年3月、奈良県で初めて「手話に関する基本条例」を制定しました。

市職員に対する手話の研修が長年行われてきたこと、市内に県立ろう学校があること、そして何よりも大和郡山市聴覚障がい者協会の活発な活動の積み重ねがその背景にありましたが、条例の制定がゴールではなく、冊子「手話であいさつ」を作成したり、ホームページに手話動画のコーナーを設けるなど工夫を重ねているところです。

昨年5月市内で開催された第34回奈良県ろうあ者大会では、市の若手職員チームが大和郡山市の四季を映像と手話で紹介し、好評を博しました。

一方、手話を必要とする人にとって口元の動きから情報を得ることはとても大切ですが、大雨の際など、気象庁によるテレビ会見が感染防止対策のためマスク越しに行われていたため、口元が見えず不安だという声がありました。

過日、その切実な思いを綴った聴覚障がい者協会会長吉岡陽子さんの手紙が、関係者のご尽力により気象庁に届けられ、今後は口元が見えるように配慮するということが、「私たちの声が届いた!」と感動の輪が広がりました。

昨年秋の第8回全国高校生手話パフォーマンス甲子園では、県立ろう学校が4回目の優勝!!

若者の活躍にもエールを送りたいと思います。



新成人からの
メッセージ

成人式を迎えて

たなか みほ

片桐中学校出身 田中美帆

この度、成人式を迎えるにあたり、20年間を振り返ってみるとたくさんの方々のおかげがありました。ここまで育ててきてくれた家族やどんな時も味方でいてくれた友達、いつも応援してくれた先生方などこれまで関わってくださった全ての方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったのだと実感することがたくさんありました。すぐに会えるはずの友達とも会うことが難しくなった時期もありました。普段、感謝の気持ちを伝えることは後回しにしてしまいがちですが、私たちの当たり前がこれからも続くかどうかは、誰にもわかりません。今を大切に、私はこの機会にたくさんの人に「ありがとう」を伝えたいと思います。

今日から私たちは大人の仲間入りです。大人になるということは自由になれるという一方で責任を持って行動しなければならないということです。私たちはこれまで様々なことを学び、経験してきました。その学び、経験を活かして責任ある行動ができる大人になれるよう努めていきたいと思います。

これから私たちは、人生の中でこれまで以上に様々な困難に立ち向かうことになるかと思えます。しかし、失敗を恐れることなく、何事にも果敢に挑戦していくことが大切です。そして、成人を迎えた私たちにできることは、これまで支えてくださった方々に恩返しをしていくことではないでしょうか。これからも感謝の気持ちを忘れず、仲間と共に素敵な人生を歩んでいきたいと思います。



新成人からの
メッセージ

20歳になって

きくち りょうすけ

片桐中学校出身 菊地亮佑

2021年は新型コロナウイルス感染症の影響で日本は危機的な状況であり、私達の成人式が無くなってしまわないかと不安に思いましたが、無事にこの成人の日を迎えることができ嬉しく思います。

さて、私達は今年で20歳という人生においてとても大きな節目を迎えます。私が小学生の頃に思い描いた20歳とは大きく異なり、まだまだ自分は、親や友人の支えなしでは生きていけない未熟な存在であると感じています。一方で、既に社会人として働いている人や、夢に向かって努力を続けている人の、自分自身で人生の舵を切っている姿は、私にとって大人そのものに見えて、すごくカッコいいと思います。

また私は20歳になり、時間ではなく経験や知識が人を大人にするのだと初めて感じました。成人を機に、当たり前のようにこれまで接し、育ててくれた家族や先生を「大人の先輩」として見つめ直してみました。すると、大人としてたくさんの経験や知識を活かして、生計を立て、家族を養い、私たちの成長を支えてくれたことに気づき、改めて尊敬することができました。私も立派な経験や知識を持つ大人になれるよう日々成長していきたいと思います。

最後に、これから大人として成長していく上で、これまででできた友人やこれから出会う仲間、私たちの人生を豊かにしてくれる存在だと思います。そんな友人や仲間たちとは、この先も、一緒に笑ったり悲しんだりできる良い関係であることを願います。大人としての自覚を持ち、カッコいい大人になれるよう、一歩ずつ成長していきたいと思います。

〈令和4年 新成人の集い「成人式」 新成人スタッフ〉



メッセージ

前に前に、 今日も挑戦

第9回水木十五堂賞
受賞者

木下宗昭

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。社会にハツラツとした若い力をお迎えできることを大変喜ばしく思います。

さて、私は、日本で作られた根付を、海外に散逸させず、日本に保管したいという一念から、京都に根付専門の美術館を開館しました。根付とは江戸時代の日本で発達した留め具で、海外でも工芸美術品として高く評価されています。私が同館を開館した第一の理由は、ただ古くからある伝統的な美術品を残すことではありません。伝統に新たな息吹を吹き込み、伝統そのものを変革させていかなければ、伝統はすたれてしまいます。伝統文化の発展とは、正に、新しい挑戦に他なりません。今も根付を作り続けている作家たちがいます。現代の感覚で、伝統それ自体を変革させようとする彼らを、私は支援しています。

伝統の変革と同じように、皆さんも、周りから理解が得られず悩むことがあっても、<前に前に今日も挑戦する>、この揺るぎない自分の想いを大切にしてください。その際、「裸心(らしん)」という心もちを、どうか忘れずにいてください。「裸心」とは「はだかのこころ」と書きます。これは「裸で生きることは恥ずかしく嫌な事にも出くわすけれども、しかし裸でぶちあたっていからこそ新たな局面が開かれる」という私の信念です。加えて、ものごとを成し遂げることは自分ひとりではできません。あなたが接する相手の心を開かせるのも、やはり、裸心です。相手に誠意を尽くすことにより、相手もまた自分に裸心でぶつかってくる、だからこそ、ここに、ぴったりと合った波長が生まれ、「相応成就(そうおうじょうじゆ)」の花が咲きます。つまり、お互いが自分の思いをかなえて前に進むことができるのです。

私は、裸心でぶつかっていく皆さんを心から応援します。その挑戦する皆さんの心を信じます。さあ、成人を迎えられた皆さん、一所懸命に、共に挑戦していきましょう。

木下宗昭氏は、江戸時代から作られていた根付を5千点以上蒐集され、日本の大切な文化でありながら外国に流出してしまっていた根付の買戻しも積極的に行われており、また、根付づくりの文化及び技術の継承のため、現代の根付作家の育成にも精力的に取り組まれている姿は、高く評価されています。

